

令和元年度 奈良市立大安寺幼稚園 研究実践概要

園長名 阿部靖子
全園児 31名

1. 主題：「遊ぶ・感じる・考える」子どもの育成を目指して
— 幼児理解・環境・保育者のかかわりを考える中で —
2. 研究年度：2年目
3. 研究主題設定理由

本園は奈良市の中心部に位置し、近くには大型の商業施設や寺院などが多数あり、住宅やマンションなどの建設が随時行われている。しかし、近隣へのこども園の設置や保護者のニーズの変化等があり、本園の在園数は年々減ってきている。また、保育者の若年齢化に伴う子育ての中での経験不足や個人的に配慮を要する幼児が年々増加している姿があり、個々の育ちにあつたかかわりや充実した教育環境を構築していくには、日々の生活及び遊び、園行事等の見直しや、保育者の保育技術、資質向上といったものが求められる。

このように、年々変化する社会状況や保護者のニーズ等に柔軟に対応しつつ、援助や環境構成を一人ひとりの幼児に適したものとなるようにするには、今一度、幼児理解や保育者のかかわり等について探り明らかにしていく必要がある。

そこで、H30年施行の新教育要領のポイントである「アクティブラーニング（積極的・能動的）」の視点から、保育者の指導や援助、環境の在り方について見直すことにする。日々行われる自発的な生活や遊びを次の4つの窓口から探ることで、幼児を捉える確かな目や保育技術を身に付けた保育者の育成と、「豊かな心と主体的に活動できる力」をもった幼児を養うことを目的とし、この主題を設定する。

- | | |
|-------|--|
| 4つの窓口 | <ol style="list-style-type: none"> 1. どのような<u>遊びの姿や幼児の心の動き</u>があるのか 2. どのようにして<u>資質や能力を身につけていく</u>のか 3. どのような<u>環境</u>が必要なのか 4. どのような<u>保育者のかかわり</u>が必要なのか |
|-------|--|

4. 具体的な研究の内容

① 研究のねらい

「幼児の姿と成長の過程」「したい気持ちや力を存分に発揮できるような環境」「主体的な活動を促す保育者のかかわり」について探ることで、保育者の資質向上を図り、豊かな心を持ち主体的に活動できる幼児を育む

② 研究の重点

- ・昨年度の成果と課題を踏まえ、今年度の取り組みについて共通理解を図り進める
- ・幼児の姿（内面理解）、主体的に活動するための環境や保育者の援助及び指導のあり方についての研修を進め、計画的かつ継続的に実践する
- ・保護者や地域、園内外の環境を生かした心揺さぶる体験を積み重ね、豊かに活動する幼児を育成するための保育内容を工夫する

③ 研究の方法

○ 幼児理解（内面・外面、活動の様子を的確に捉える）をする

- ・ビデオや動画などを用いて幼児の遊びや活動の様子等を振り返り、保育者相互に読み取った幼児の

活動の様子や内面を出し合い話し合うことで、幼児の育ちを明らかにする

- ・遊びの中に含まれる「幼児の気持ちや心の動き」について探り、そこでの幼児の環境へのかかわり方を明らかにする

○ 環境構成や保育者の援助及び指導の在り方について考える

- ・園内研修会や日々の研修で動画などを用いて幼児の遊びや活動の様子等を振り返り、そこに必要な環境や保育者のかかわりについて話し合うことで、幼児の主体性を促す環境構成や保育者の援助等について探る
- ・日々の保育についての話し合いや振り返りを通して、幼児の発達に沿った援助と教育的な意図の持たせ方、個々の思いを活かすことのできる環境についての理解を促す
- ・事例を分析することで、事例の書き手と読み手の捉え方の違いから見える「互いの教育観や実践感」を出し合い、多様な視点で保育者が幼児の姿や遊びを捉えられるようにする
- ・環境のもつ特性（～できる可能性）について探り、保育者は広い視野のもと環境を準備できるようにする

内 容

I 主題理解 【 「遊ぶ・感じる・考える」子どもの育成を目指して 】

この主題にある「遊ぶ・感じる・考える」とは、幼児が日々の遊びや生活の中で「したい気持ち」をもち、実現に向けて様々な試行錯誤や再考を繰り返しながら、その営みを続けていく幼児の姿そのものである。

この姿を様々な資質や能力の獲得へとつなげていくには、保育者に「心の動き（内面）」を丁寧に捉え、「遊びや活動等の分析を行う能力」やそれらを「読み解く力」を持っていることが求められる。

そこで保育者自身の資質能力や保育技術の向上を目指すために、「幼児の遊びの中での気持ちの動きや能力を身に付けていく過程、取り巻く環境にはどのようなものがあるのか」「幼児がのびのびと力を発揮できる保育者のかかわりにはどのようなものがあるのか」について丁寧に探り、分析しながら明らかにしていくことにする。

II 主題を促進する視点

主題にある「遊ぶ・考える・感じる」を以下のように考え、話し合いや再考を繰り返す中で保育者の視野を広げつつ、幼児が必要な資質や能力を見に付けていけるようにする。

遊ぶ：したい気持ち＝やる気＝モチベーションの変化

考える：考えようとする気持ちの芽生えと実行力（試す・再考・試行錯誤）

感じる：心動かす体験、様々な感覚（感じる心）を豊かに養う

豊かな心
主体性
活動的な姿

◇「幼児理解」をするためには？

○ 幼児の姿を理解するための視点

- 幼児の姿の中には外面と内面があり、この二つを捉えて初めて「幼児の姿」を理解することが出来る
外面＝幼児の動きや行動等の目に見える姿、遊んでいる姿、具体的な環境へのかかわり方

内面＝目には見えない部分、思いや考えなどの心の動き

いきいきと生活したり活動的に行動する時の、具体的な心の動きとは？

- ① ワクワクドキドキする気持ち
- ② 新しいことを考える気持ち
- ③ 新しいことを試す気持ち
- ④ いろいろな材料や道具を使い、ダイナミックに遊び楽しむ気持ち
- ⑤ 自分で限界を決めないで、期待を持ち試そうとする気持ち
- ⑥ 何回も何回も繰り返そうとする気持ち

○ 幼児が主体的に行動しようとしている時の、幼児の遊びや活動の分析の仕方

次の2点から、幼児の姿を明らかにして行う

- ① したい気持ち、やる気、モチベーションの変化やその分析
- ② 具体的な環境へのかかわり方について

◇計画的な「環境構成」を行うためには？

1. 目の前の子どもをしっかりと観察する
2. 幼児自信が目の前にある環境の中から必要性や価値を見出し、自分で選び出していけるようにする
3. 一つの環境の中には、多くの特性や「～できる」可能性（アフォーダンス）があることを理解しておく

Ex) 折り紙 *折る・・・ことができる

 *切る

 *ねじる

 *ちぎる

 *色を楽しむ

4. 幼児の「したい気持ち、やる気、モチベーション」を支える要因について理解しておく

- ① 自分力で最後までできる場所や時間がある
- ② 自分力や活動をコントロールできるスキルが身に付けられる
Ex) 物との付き合い方や接し方がわかる
- ③ 自分で何かを考え作り出す機会がある
- ④ 一生懸命に取り組むことが出来ることや人とかかわりがある
Ex) 頑張る → 「よかったよ」「ありがとう」 → 「またやってみたい」の気持ちの循環
- ⑤ 人とかかわったり、感謝する経験の積み重ねができる
Ex) 自分から挨拶をする → 挨拶という習慣が身につく

- ⑥ 既成のものでなく、自分のオリジナルのものを作り出せる機会がある
- ⑦ 「不思議だな」「すごいな」「わあ、(驚き)」と思える感動体験ができる
- ⑧ 一緒にしたり、協力し合える人とのかかわりがある
Ex) あの人とだったらできるかも？
これを一緒にしよう！
- ⑨ 苦手なことや初めてのことにチャレンジできる機会がある
Ex) できるかな？ → こうしたらできるかも？ → 自信
- ⑩ 自分や周りのしていること、姿を振り返る（可視化する）機会がある
- ⑪ 体験を自分なりに意味づけ、自分のものとしてできる機会がある
- ⑫ 失敗から前に進む経験ができる
Ex) まだまだやれる！気持ちの保持

◇幼児が主体的に活動する姿を支える教師の援助・指導とは？

保育者は、幼児が遊びの中で「具体的にどのようなことをしようとしているのか？」「何を感じているのか？」等を丁寧に読み取り、教育的な意図を含め、幼児がより積極的かつ能動的に活動できるようにすることが必要である。具体的には、下記のようなかかわりがあると考え

- ① 見守る
- ② 見届ける
- ③ 共感する
- ④ 示唆する
- ⑤ 教える 等

Ⅲ実践事例

多角的な捉えからの遊びの分析及び環境構成、保育者の援助

— 園内研究会 保育者の日々の悩みより —

1. 研修のねらい及び研修の視点を定め、研修を行う

研修の意義：保育をする中で保育者は「幼児の見方と捉え方は、これでいいのか？」「なぜ遊びが広がらずにすぐに終わってしまうのか？」等の悩みを抱えている。このことを受け、参観者とともにいろいろな見方や捉え方を出し合い、「幼児の姿（内面）」について学ぶ



◇本日のねらい

- ① 幼児の姿、援助、環境構成について話し合う
- ② 幼児の姿の中にある「心の動き及び内面」について考える

◇幼児の内面を捉えるポイント

- ① 表情：視線等
- ② 言語及び周りとのコミュニケーションの様子
 - ・呼応をしているのか？
 - ・会話をしているのか？
 - ・反応及び反復をしているのか？
- ③ 表現（態度、行動、身振り手振り 等）
 - ・黙り込む、じっと見ている、うつむく、止まる
 - ・はしゃぐ、興奮している 等
- ④ 遊びや行動を起こしている幼児の意思や気持ちがどのように動いているのか？
 - ・本当にこの遊びに興味を持ち行っているのか？
 - ・単に遊びが見つけれず、周りの幼児のしていることについてまわり遊んでいるのか？
 - ・自分で考えを巡らせたり、イメージを広げたり、試行錯誤を繰り返し行おうとしているのか？

◇研修の流れ

1. 保育参観・・・各自研修の意義を理解し、ねらいや視点に沿って幼児の姿や遊びを捉える
2. 話し合い・・・参観で捉えた内容について、順にポストイットを活用し話し合う

※以下、話し合いで使用したポストイット及び内容

5歳児 令和元年 7月 1日

時期：自分なりの目的をもって友達とのかかわりを広げていく時期

ねらい：遊びのイメージや思いを出しながら、考えたり試したりして遊ぶ

星や星座に興味をもち、自分なりのイメージを膨らませ、自分たちのプラネタリウムをつくることを楽しむ

保育者の願い：自分たちで進んで生活を進めていってほしい

物の特性や性質に気付き考えたり試したりしながら遊び込んでほしい

自分たちで話し合ったり考えたりして遊びを発展してほしい

高いのでは？

＜イメージを広げたり、具体的な思いを引き出す
援助と環境構成について＞

「料理ごっこ」：環境によるイメージの広がり

- 幼児の姿：① 小麦粉や片栗粉に入れる水の量を友達に伝える
② 出来たものをヨーグルトに見立てて喜ぶ
③ 水との混ざり具合や感触を楽しむ
④ 適量の水の量を、友達に教えてもらい気づく
⑤ 作る姿を「コックさんみたい」と、知っているものに結び付ける



環境構成：片栗粉、小麦粉、塩、水、寒天、春雨、絵具、プリン型、ボール、お玉、泡だて器、プリンカップ、皿、箸、竹串、スプーン、コックの帽子、野菜の皮

- 子どものワクワク感を刺激する炭酸水や野菜の皮などがあり、幼児のやる気につながった

この遊びでの必要と思われるかわり

- ① 素材の感触や違いに気付けるような声掛けが必要
- ② 「～はどうする？どうしたいの？」という疑問形の投げかけをすることで、幼児が自分の思いを持ち行動することが出来る

話し合い：まず幼児は、興味を持ちやってみる。そこに気持ちを刺激するような環境があることでイメージを更に膨らませたり、具体的なイメージを持ちやってみたりしようとする。実際に野菜の皮などの気持ちを刺激するような環境があったことで、幼児は興味をもち喜んで取り組んでいた

わかったこと：環境へのかかわり分析資料の中の、第二段階の感覚的、対話的段階であると捉える。遊びの中には自分なりに「こうかな」と試している姿がある。これが続くと「集中力」と言う大きな力が養われる。この営みを更に繰り返し経験する中で培われたものが「自信」となり、「次はこうしたい」等の思いやイメージの広がり生まれ、第三段階の目的思考段階へと続いていくのである

<遊びの読み取りと教育的な意図を含ませることの難しさ>

「作ってあそぼう」：次なる環境の構成

- 幼児の姿：**
- ① 箱や巻き芯などいろいろな素材を使い、自分のイメージしたものを作る
 - ② 出来たものを手に持ち、ピロティーを走り回る



話し合い：Q 単に作ったものを持ち走り回っている姿があるが、どのようにかかわったらいいか迷っている

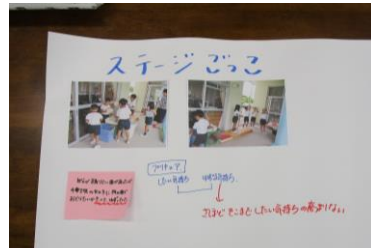
A 幼児は単に気持ちを発散したかっただけではないか？このように、自由にしたい事をするような活動や時間も必要である。さほど心配する必要はない。もっと興味を持てるような遊びに出会うと自然とそちらに移行するので、この遊び以外に興味を持てるような遊び環境を構成する事が必要であるのではないか？

わかったこと：幼児の遊びの中には、単に気持ちを発散させたかったり一緒に群れて動くことで一体感を味わったりするようなものがある。保育者はすべての遊びを何とかしようと思うのではなく、その遊びが「幼児にとってどのような意味を持っているのか」を、幼児の内面を探りながら見極めていくことが大切である。

<遊びへの気持ちの入り方を見極める>

「プリキュアごっこ」：したい気持ちの度合い

- 幼児の姿：① 自分のお気に入りの曲に合わせて踊る
② 4歳児が参加すると譲り、見ている



話し合い：Q したいと思い踊っていたはずなのに、どうしてすんなり譲ってしまうのか？

- A 5歳児はしたい気持ちを持っているが、すんなり4歳児に譲ってしまう姿があるということ、さほどしたい気持ちの高まりもないのではないかと

わかったこと：単に踊ることを楽しんでいる。しかし、今の時期に経験させたい姿や遊びにもあるように、「これをこんな風にしよう」と思えるような、具体的な目的となるようなことを投げかけたり、一緒に考えたりしながら、幼児の刺激となるようにすることで、遊びへの気持ちの入り方が変化し、より積極的に遊ぶ姿へとつながる

<本当にしたい気持ちの有無について>

「カプラやキューブで遊ぶ」：したいことの明確化

幼児の姿

- ① 一人の友達のカプラでタワーを作る遊びに群らがり、一緒に遊ぶ
② 何となくみんなが遊んでいる様子につられて動く
③ 遊びながら先生の言葉をよく聞いている（遊びに集中していない）

保育者のかかわり：・「したい遊びをしてもいいよ」と幼児に言う

- ・保育者も仲間に入り、遊びの途中で「どうしようかな？」と、幼児につぶやく

話し合い：遊びに、気持ちが入りきれていないような姿があるように思う。単に本当にしたい事が見つからず、そこにあるものに触れているだけではないか？

わかったこと：どのようなことや遊びが好きなのか？一人一人の興味を再度探り、熱中できるようなものを準備したり、体験や経験できるようにしたりすることが必要ではないか？

<明日の活動へのつなげ方>

「振り返り」：幼児同士の活動の様子の共有の仕方

- 進め方：① 全部の遊びについて話し合いを行う
② 子どものペースや言葉で進めようとする



- 大切なポイント：① 全部について振り返るのではなく、
ポイントを絞って話し合いを行う
- ② 保育者が伝えたいポイントに沿って進める
- ③ 話し合いをしたことや話し合いで取り上げられた遊びの内容が、子どもにとって、
明日の遊びのポイントとなったり、具体的に「～しよう」「してみたい」と思えるよ
うに進める
- ④ 幼児の発達の時期に沿って焦点化しながら進める

わかったこと：話し合いを「何のために行うのか？」と言うことを、常に念頭に置き進めることが大切である。話し合いを「しなければならぬもの」にすると、保育者主導で進んでしまったり、一部の幼児と保育者との間の話になってしまう

3. 一斉活動のビデオを見ながらカンファレンスを行う

「プラネタリウム作り」

環境：みんなでプラネタリウムを見た実体験をいかして、自分たちのプラネタリウム作りをする

<幼児の姿と保育者の援助について>

幼児の姿

- 保育者の問いかけや質問に、言葉の出る子と出ないことがいる
- どうしていいかわからない表情をしている子がいる
- プラネタリウム作りでは、実際に経験していない友達（プラネタリウム見学当日欠席者）にもわかるように伝えようとしている姿がある



読み取り

- 難しいことを理解しようとしていたのではないか？
- 友達がしている姿を見て、安心して自分もしようとしていたのではないか？
- 自分がわからないことを、周りには伝えなかった幼児の姿があった

必要な援助及び指導

- ・シートの作り方について、長時間言葉で説明する

話し合いより

プラネタリウムに映し出すシートの作り方の説明を長くするよりも、保育者が実際に作ったものを映して見せ、ワットと思う気持ちをもつ方がイメージを引き出し、幼児のしたい気持ちに広がりが出る



- 言葉よりも、実際に心が動く体験をするほうがしたい気持ちにつながるのではないか？

環境構成

- ・雰囲気つくりのために、部屋を暗くしたり音楽をかけたりする

話し合いより

- プラネタリウムの雰囲気を出すために、暗さや音楽をかけたことは効果的であった
- プラネタリウムを見に行っただという実体験をもとにこの活動を持ってきたことで、自分たちの今している活動と体験したプラネタリウムとのイメージが重なり、そのことを楽しんだり更になりたいという気持ちの芽生えへとつながったりしている

<今後、どのようにすればよいのか？>

ポイント：「わからないことを、わからないと伝えられない幼児の姿がある」

- わからないことを変わらないと伝えることはコミュニケーション能力の育成につながるので、その機会を大切に支えつなげていく保育者のかかわりが必要である
- わからない子が伝えやすくなるように保育者や友達に伝えるなど、幼児同士がかかわりを持つきっかけを作ったり、具体的に示したりすることが必要である
- わからないことがよくわからない子、周りの子がしていることを見てなんとなく行っている子には、まずは自分がわからないことに気づけるように、丁寧なかかわりを持つことが必要である
- 保育者は、問いかけに対して言葉を発する子とそうでない子とがいることを理解し、全員が何らかの形で参加出来るような配慮をすることが必要である
- 保育者のしたいことと幼児のしたいことに違いが生じていた。
幼児は、単に☆一つずつを線でつなげるというイメージで取り組んでいた。
保育者は、今日の保育で何をねらうのか？を再度熟考する必要がある。
今日は、幼児一人ひとりが遊びを楽しんでいたのか？複雑な形までの星座作りが本当に必要であったのか？等、振り返りを丁寧に行うことで、明日の保育に生かすことができる
- 保育者の説明が長くて、何をするか不明瞭になってしまっていた
幼児の発達や現状に合わせて短く明確に伝え、遊ぶ中で徐々に理解を促していく方法もあるので、今後に生かせるようにする事が大切である

考察

幼児の遊びには、保育者の予想を超えるものや相反するものなど、様々なものがある。保育者は、そのすべてに教育的な意図を含ませかかわろうと意識しがちであるが、大切なポイントはそこではない。

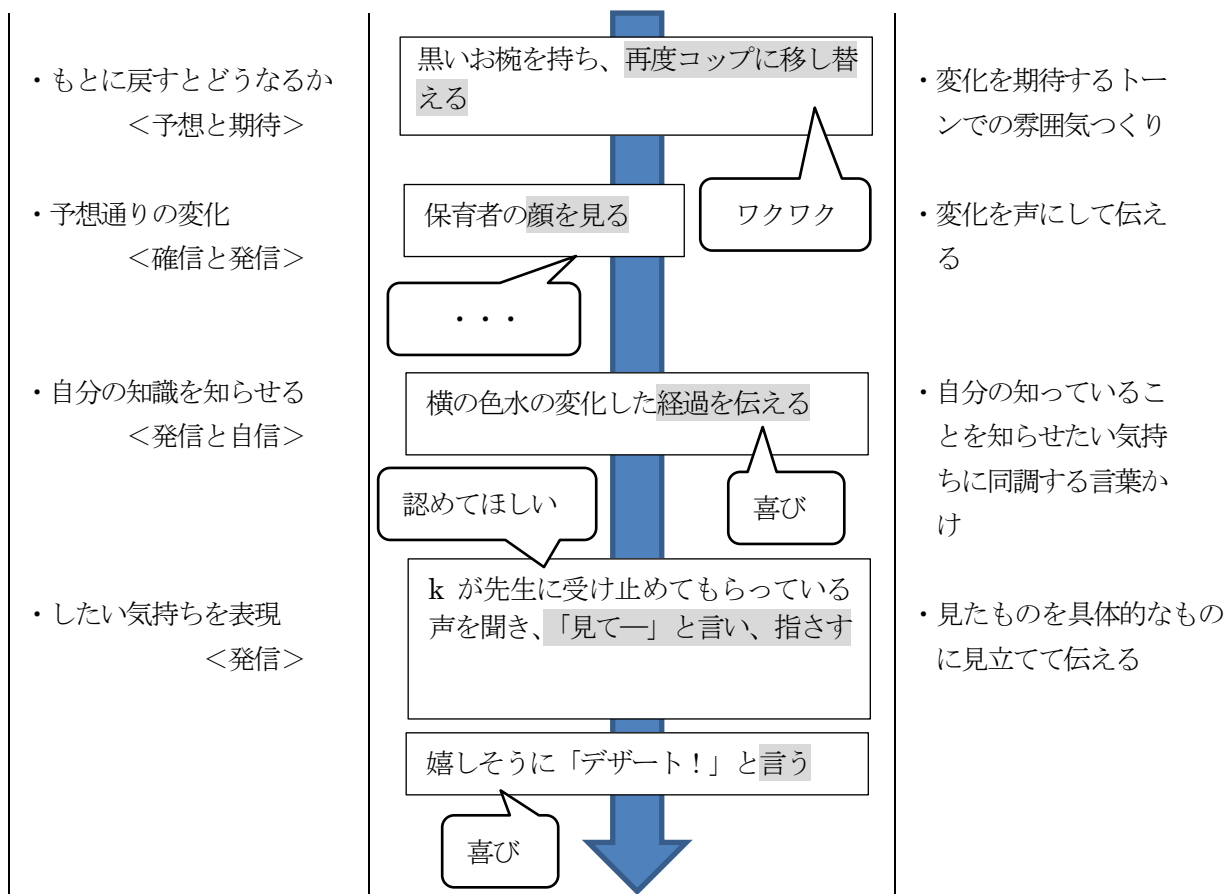
それぞれの遊びに「幼児がどのようにかかわっているのか？」「この遊びが幼児にとって、どのような意味があるものなのか？」という、幼児の姿や価値を的確に捉えることで、保育者がするべきかかわりや環境構成が見えてくる。

保育者は、「幼児の遊びや発達がどのような段階にあるのか？」について常に意識し、必要な経験ができるよう、再考を繰り返しながら進めていくことが大切である

保育者の援助及び環境構成のあり方

— 幼児の発達に合わせたかかわり（受け止め・声掛け）について

題	4歳児 5月：「見て！黒になった」	
時	先生との信頼関係の中で楽しく遊ぶ時期	
期	自分のしたいことを存分に楽しむ時期	
事 例		
<p><事例について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 色水を作って遊んでいたkが偶然黒いお椀に色水を入れたことで、それまでの色とは違う色に見えたという発見をした。それを、保育者に見てほしいと思いつける その後も、色を混ぜることで色水の色が変化することを保育者に知らせる ○ kと保育者のやり取りを隣で感じていたuが、自分のつくったものを保育者に「見てほしい」と言い、見せる 		
<ul style="list-style-type: none"> ○ k：クレープ紙を使い、赤い水を作る T：「きれいな赤、あれあれあれ」といいながら、中が黒いお椀に移し替える様子を見守る k：「ほら、黒になった」と、黒いお椀の中に入れた色水を指さす T：「ほんと、ケイちゃんの言うとおりにや」 k：黒いお椀を持ち、再度コップに移し替える T：「あれ、あれ」と、変化に期待をもっている声のトーンと表情でその様子を見守る k：コップに移し替えると、保育者の顔を見る T：移し変わったコップの中の色を見て、「きれいな赤」と言う k：横に置いている茶色い色の色水が入っている飼育ケースの中に両手をつける 「これ、緑になって茶色の色にしてん」 T：「わあ、すごいなあ」と、kの気持ちに同調する u：隣でkが先生に受け止めてもらっている声を聞き、自分の作っているもの（計量カップに砂が入り、上に緑の葉っぱが載せてある）を「見てー」と言い、指さす T：「ウ u ちゃんきれいな飾り、かわいいやんか。ほんとのデザート見たい」 u：保育者の声を聞き、嬉しそうに「デザート！」と言い喜ぶ 		
育ちや学び	□ 幼児の活動の姿 及び（心の動き）	援助と環境
<ul style="list-style-type: none"> ・色が黒くなることへの気づき <発見と発信> 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">クレープ紙を使い、赤い水を作る</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">「ほら黒になった」と、黒いお椀の中に入れた色水を指さす</div> <div style="font-size: 2em; color: blue; margin: 0 auto;">↓</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; width: 100%;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">嬉しい！</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">見てほしい</div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の知らせたい気持ちに寄り添う言葉かけ



＜評価＞

- ・「何を思い遊んでいるのか」「幼児が何を思い話しているのか」等、幼児の行動と心の動きを丁寧に読み取り、保育者はしゃべりすぎないように意識することが大切である
- ・この時期の幼児は、「保育者との安定した関係＝聞いてほしい時にすぐに受け止めてくれる」保育者の存在が必要である。このことを意識しながら、幼児の何気ない表情・言葉一つ一つをしっかりと受け止め、必要な言葉を厳選しながらかわりをもつことが必要である

＜事例の中にある「したい気持ち、やる気、モチベーションを支える」要因＞

- ① 自分で何かを考え作り出す機会がある
- ② 一生懸命に取り組むことができることや人とのかわりがある

＜考察＞

Q 4歳児の5月という時期の保育者のかかわりには、どのようなことがあるのか？

- ① 幼児の行動と心の動きを丁寧に読み取ろうとすることが必要
- ② 先走って話をするのではなく、幼児の言葉の奥にある気持ちを読み取る
- ③ 読み取ったことを言葉にして伝えることで受け止める

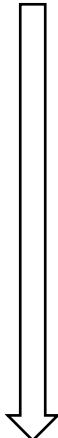


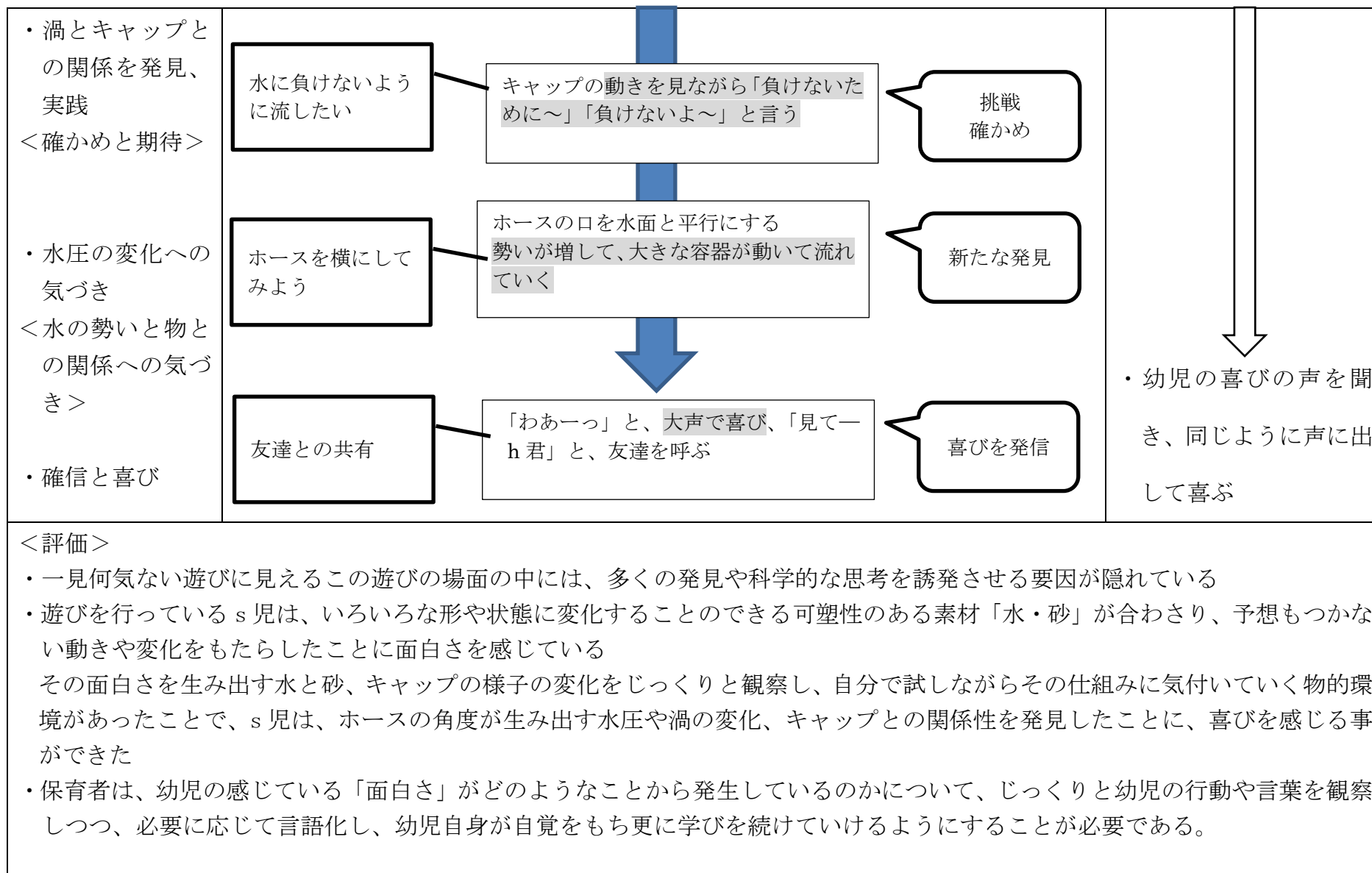
上記の事を意識しかかわることで、幼児のしたい気持ちがより一層膨らみ、楽しむ姿へとつながっていく

幼児理解から見た、環境（素材）に潜む面白さ

— 幼児の内面を探る、環境のもつ特性を知る —

題	5歳児 6月：「みて・・・！」—ホースで作る渦巻きとキャップの舟—
時期	自分なりの目的をもって、積極的に遊んだり行動したりする時期
<p><事例について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 5月より、ホースを使い、水を引き入れながらトイに水を流したり、砂場で池を作ったりして遊んでいる。この流れの中で、なんとなく水たまりに投げ入れたキャップが、水流で動く様子に興味を持ち試す ○ sが砂場に水を入れ、キャップのふたの動く様子に興味を持ち何度も試す。そこで感じた喜び hに伝える 	
<ul style="list-style-type: none"> ○ h：水の溜まっている中を歩きながら「これ水たまり？」とつぶやく T [みずたまりつくってんねんな] と、hの言葉を復唱し受け止める (中略) s：ホースの先を水面に潜らせたり少し上に出したりし、水圧でできる水の流れを見る。 s：グッと思い切りホースの口を砂に突き刺しゆっくりと上げると、すぐ上にあった青のキャップが水の流れで押され動く様子を目にする 「流れてる！」 ○ キャップをホースの口のすぐそばに落とすが、水に沈んでしまう s：再度キャップを持ちホースより少し後方に落とし、水圧で出来た流れに自然と吸い込まれていく様子をジッと眺める s：すぐに手元にあった白いキャップを水の流れに置く スウッと流れ一度沈むが、再びクルッと回って浮き上がり戻ってくる s：その様子を見て、再度近くにあったキャップをすぐ横の水の流れに置く ○ 勢いよく流れに乗って流されるが、勢いよく何度も戻ってくる s：その様子を見て「負けないために～、負けないよ～」と言う ○ sの声とキャップの流れる様子を見ていた hがホースの口のところに流れているキャップをすくい、入れる s：何度もキャップのふたを落とし、流れる様子を見る s：「負けないためにーわあ！わははは！負けないぞ」と言いながら、流れる様子を見る ○ sが視線をあげる s：「見てー、ともひとくん見てー！」「あんなところに！と、少し離れたところで動く白い容器を指さす 	

育ちや学び	□ 幼児の活動の姿 及び 心の動き □		援助と環境
<ul style="list-style-type: none"> ・水と砂の動きの面白さ<興味> 	<p>水と砂が動いてる・面白い</p>	<p>ホースの先を水面に潜らせたり少し上に出したりし、水圧でできる水の流れを見る</p> <p>不思議・惹かれる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の「これ水たまり」という言葉を聞き、「水たまり作ってるねんな」と受け止める
<ul style="list-style-type: none"> ・水面下と水面との水面の様子の違い、角度<変化への気づき> 	<p>どうなるかな？違う！</p>	<p>グッと思い切りホースの口を砂に突き刺しゆっくりと上げる</p> <p>期待と発見</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・キャップと水流との関係性<発見と喜び> 	<p>キャップが流れる・面白い</p>	<p>すぐ上にあった青のキャップが水の流れで押され動く様子を目にする</p> <p>変化への気づき喜び</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の発見や言葉をすぐに受け止められるよう、すぐ横で見守る
<ul style="list-style-type: none"> ・期待通りでないキャップの動き<予想つかない面白さ> 	<p>どうなるかな？あれ違う！</p>	<p>キャップをホースの口のすぐそばに落とすが、水に沈んでしまう</p> <p>したい気持ちの広がり、期待、確認、発見、キャップへのシンクロ</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 水面下の様子への興味の広がり<認知的疑問> 	<p>あっ！なくなった！どうして！</p>	<p>流れに吸い込まれる様子をジッと見る</p> <p>未知なるものへの興味</p>	



○事例の中にある「したい気持ち、やる気、モチベーションの変化」を支える要因

- ・「不思議だな?」「すごいな」「わあ〈驚き〉」と思える感動体験ができる
- ・体験を自分なりに意味づけ、自分のものとしてできる機会がある

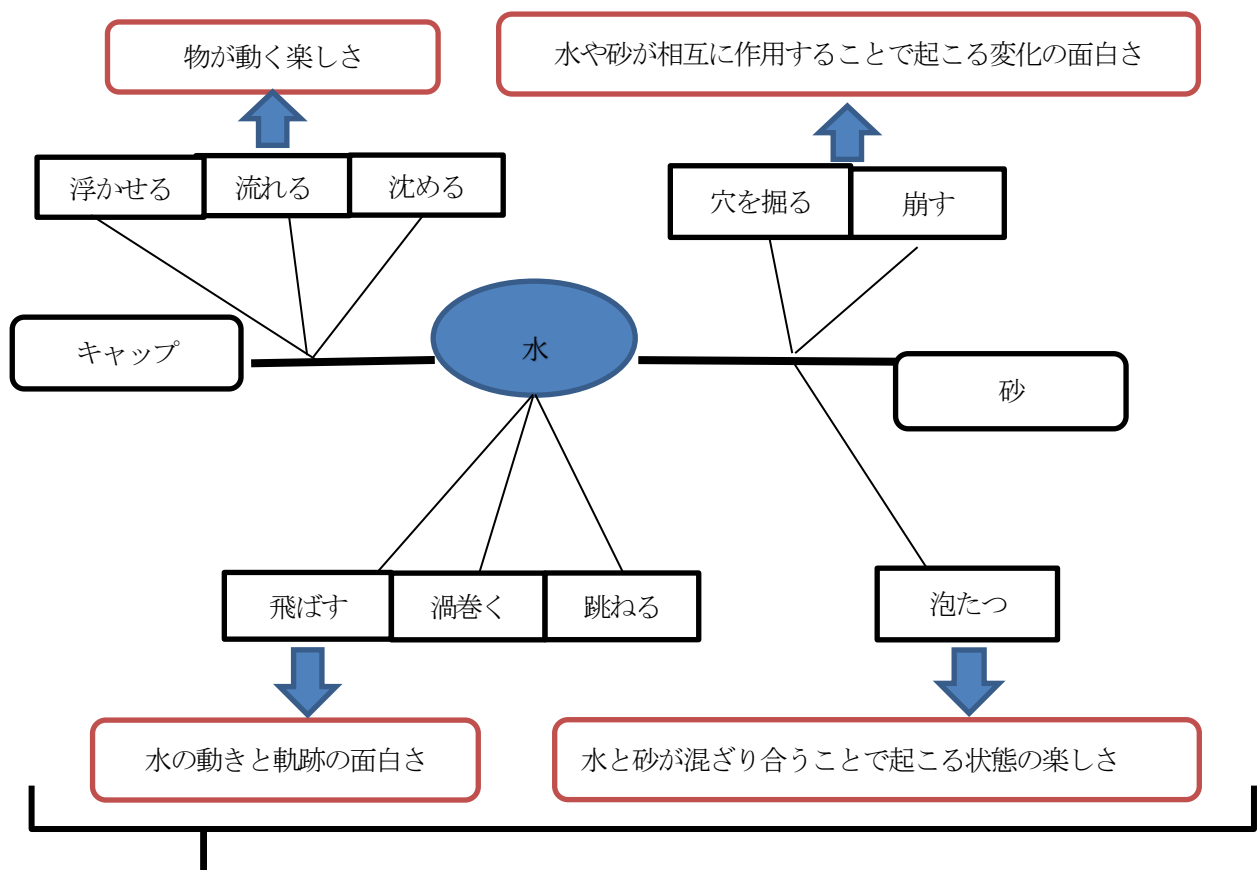
<考察>

- ・この時期の幼児はまだ個人差が大きく、ひとつひとつの遊び自体は派手ではないが、物や素材と対話を重ねながら自分なりに試したり、発見をしたりを繰り返している
このことを受け保育者は、遊びを発展させようなどと先走ることなく、まずは何をしているかをじっくりと観察しつつ、幼児の面白さの細分析を行いながら、必要なかわりや環境の準備をすることが大切である

○この事例をもとに「幼児が、どのようにものと対話をするのか?」について、職員みんな
で話し合いを行う

可塑性のある「水」を使うことによって「どのようなことが面白く、楽しいのか」「どのような遊びが始まるのか(～できる)」について話し合う

<「水」をもとにしたアフォーダンス>



なぜ、この素材を面白いと感じるのか? 次のようなことがあると考える

- ・予測のつかない動きや変化がある
- ・手で触ったりすることで、確かめられる楽しさがある
- ・物の動きを擬人化して表現する等、単純にみんなが同じように感じ楽しむことが出来る

<考察>

一つの素材や物から「どのような遊びが起こる可能性があり」「その遊びには、どのような面白さや楽しさが含まれているのか」について、あらかじめ保育者自身が想像できることで、幼児の心の動きやしたい思いをより丁寧に捉え、幼児の思いを生かすことのできる環境構成をすることができると考える。

幼児の姿と発達

—互いの教育観や実践感の違い、援助と環境構成について—

I.話し合いの方法

- ① 実践者からの説明
- ② 互いの捉える視点の違いから見える、幼児の姿と発達について
- ③ 発達に合わせた援助と環境構成について
- ④ 援助と環境のもつ、幼児の心を支える要因についての分析

II. 事例より — 5歳児第4期 11月「僕も何か作ろうか？」—

1. この時期の発達の姿の確認

この時期の幼児の姿を見ていく中で、どのような姿があるかについて全員で確認をする

- ・自分の課題をもって取り組んでいるかどうか？
- ・意欲的に進めているかどうか？
- ・目的に合わせて材料や用具などを選んでいくかどうか？
- ・いろいろな方法で工夫して表現しているかどうか？
- ・トラブルや困難を受け止め、前向きに解決しようとしているかどうか？

2. 実践者と共に、事例の内容が出てきた経緯などを整理する

(Q：全体への問いかけ、A：実践者の意見、F：その他の意見)

Q：なぜこの事例にしたのか？

A：今までは保育者主導で遊びや活動を行っていたが、遊びの中で自分たちで友達と協力して遊んでいく姿を捉えたいと思ったから

「僕もなんかつくろうか？」			奈良市立大倉寺幼稚園
5歳児	11月	自由選択活動	室内
ねらい ○友達と共通の目的をもち、協力したり役割分担したりしながら遊びを深めていく。 ○友達と一緒に自分の思いや考えを伝えたり確認したりしながら、遊びを楽しむ。			
(これまでの子どもの姿) ・お化け屋敷をつくりたいという共通の目的をもって、個々につくったオバケを保育室に飾るなどして遊んだ経験や、大きなトラをつくるという共通のイメージをもって体をいくつかの部分に分けて作り組み合わせて一つのトラをつくれた経験がある。 ・保育者が紹介をしながら友達と話し合い、共通の目的をもって、協力したり役割分担をしたりしながら遊びを深めていった経験がある。 ・遊びの中で自分のしたいことや気づいたこと、考えたことなどを友達や先生に伝えようしたり、友達の話に興味を受けたりしながら、興味や関心を広げられるようになってきている。 ・キャスターを付けた段ボールの乗り物を遊べる際に乗ったケーブルカーのプラレールにしたいと思い、自由製作をしてお遊びはじめる			
活動の様子	保育者の援助・環境構成	保育者の意図	
(T…保育者) ・A児B児が保育室貼っていた速達	・部屋に貼っていた速達の時の写真	・共通のイメージや目的をもって遊	

この保育者思いは、ねらいやこれまでの子どもの姿の中にある「共通の目的や協力、役割分担」と言う言葉から見ても捉えることが出来る

○この5歳児の4期における「共通の～」 「協力して～」 「役割分担して～」 という

3つの事をどのように捉えるのか？話し合いの中で、実践者を含め園内でも捉え方に違いがあることがわかってきた。そこで全員で、5歳児の11月から出てくる姿の中にある「共通のイメージを持ち」「協力して進める」等の言葉には、具体的にどのような姿や意味が含まれているのか？について話し合う

A：具体的な自分たちのイメージをすり合わせて、一つのものに作り上げていくことであると思う

F：「イメージのすり合わせとは？」具体的にどのようにしてできるのでしょうか？

A：互いの意見や考えを出し合っ、そこでのぶつかり合いや話し合いをする中で行われることです

F：少しこの事例を読む中では高度なことのように感じるので、もう少し掘り下げて考えてみたいですね

A：いずれは、このような小グループでの経験を積み重ね、沢山の人数で意見を交わし合いながら作れるようにしていきたいと思っている

沢山の人数であれば、「こうしたい」気持ちのすれ違いやトラブルも起こる
そこでの気持ちの葛藤や話し合い、折り合いをつけながら進めていけるようになってほしいと思っている

F：話し合いというものは人数の問題でないのではないか？少ない段階でも自分の気持ちを出したり、友達のしていることにもっと関心を持って一緒にしていくような姿が必要でないか？

その姿が、事例の中ではどのようなであったかについても見ていくことにする

Qでは、上記の「イメージのすり合わせ」にもつながることですが、事例の中にある「共通～、協力」に視点を当てて、保育者と幼児との今までのやり取りを思い返しなが、具体的に幼児の姿や心の動きについて考える

第一段階	第二段階	第三段階
(保育者の助けを基にして進めながら、みんなで一つのものを作ることに喜びを感じる)	(保育者の見守りや少しの助言、受け止め、共感等があり、安心感や自信を持ち、みんなでできたことが楽しいと思える)	(自分たちで協力や分担を意識してできる)
① <u>保育者が何を</u> 作りた <u>いか</u> 尋ねる	① 自分の気持ち (具体的な思い) 「こんなもの	① 自分の気持ち (具体的な思い) 「こんなものを作

<p>② 幼児が作りたいものを決める</p> <p>③ <u>保育者が具体的な全</u></p>	<p>を作りたい！」をもつ</p> <p>② 自分のしたい思いを</p>	<p>りたい！」をもつ</p> <p>② 自分のしたい思いを言葉にして相手に伝える</p>
<p>③ <u>体像を</u>幼児の気持ちを聞きとりながら<u>示す</u></p> <p>④ 具体的に作るものを示す</p> <p>⑤ <u>保育者が聞きとりながら</u>、それぞれが作りたい部分に<u>分かれて作れるようにする</u></p> <p>⑥ 出来たものを一つにまとめる</p>	<p>言葉にして、相手に伝える</p> <p><u>*個々に自分の思いを出せているかどうかを見守る</u></p> <p>③ 相手の思いを聞く</p> <p>④ 共通の漠然としたイメージを持つ</p> <p>⑤ それぞれに作りたいものを作る</p> <p><u>*場合によって、保育者も仲間に入り、相談に乗る</u></p> <p>⑥ 身近な材料から使えそうなものを探す</p> <p>⑦ 自分の作ったものや隣で同じように作っている友達の様子を見たり、そのことについて話をしたりする</p> <p><u>*幼児の頑張りや考えを認めたり、共感したりする</u></p> <p>⑧ それぞれが作ったものを集め、一つのものにする</p>	<p>③ 相手の思いを聞く</p> <p>④ 「じゃあ、何を作ろうか？」具体的に話し合う</p> <p>⑤ 共通の漠然としたイメージを持つ</p> <p>⑥ 具体的に「何をどのように作るのか」について再度話し合い、整理をする</p> <p>⑦ 作りたいものを聞いて役割分担をする</p> <p>⑧ 身近な材料から使えそうなものを探す</p> <p>⑨ 役割の中で、自分の分担のものを作る</p> <p>⑩ 友達と作ったものについて話をしたり、一緒に考えたり、再度作り直したりする</p> <p>⑪ それぞれが作ったものを合わせ、全体を見ながら調節する</p>



上記の事を踏まえると「共通～、協力」という言葉の中には、幼児の発達や経験に合わせた進め方があり、そこでの幼児の姿や心の動きには違いがあることが分かった。このことから考えると、今回の事例は第二段階の「みんなで出来たことが楽しいと思える時期」のころのものであると捉えられる

そこで再度今回の事例を見直し、幼児が「どのようにして、みんなで作ることを楽しいと思えたのか?」「保育者の援助や環境構成にはどのような意味があったのか?」に視点をあてて見直すことにする

○では、「これまでの子どもの姿」について振り返る

ここでは、「どうして、このような具体的な姿がなぜ出てきたのか?」「それまでの子どもの経験はどのようなものであったのか?」など、具体的な内容である本文をよりりかいしていただくためのものとなる必要がある。このことを踏まえ、今回書いている内容はどうか再度見直していく

A: この事例にある経験をする前に、幼稚園祭りで使う神輿のトラを上記の第一段階の姿で作り進めた経験がある。ここでは、保育者が「足を作りたい人〜?」「顔を作りたい人〜?」と呼びかけ進めている。トラを作るときには、「どんなことをしてるトラ?」と先に子ども達に投げかけをして進めている姿があった。

F: 先生のイメージが先あって、トラ作りを進めましたか?

A: 子どもの話を保育者が絵に書くことで、捉えられるようにした。ここでは、具体的に「お肉のところをどうするの?」等、問いかけた。

A: 次は、作品展で使うユニコーンのメリーゴーランドを作った。これに関しては第二段階の進め方で進めたが、具体的にどのようにするかをなかなか考えられずにいる姿があり、作っている途中で幼児の気持ちが落ち込んでしまうなどの姿があった。保育者が幼児一人一人の気持ちをもちあげるべく、かなり具体的に案を出したり一緒に作ったりというかわりがあった。

その次に、今回の事例のケーブルカー作りがある。このケーブルカー作りでは、幼児自ら、保育室の写真を見て作りたい気持ちをもった。今までと違い子ども達がどんどん自分のしたいことを伝えながら自分たちで作っていく姿があって、保育者があまり具体的にかかわらなければいけないことはなかった

Q: ユニコーン作りの時とケーブルカー作りの時とでは、子どもたちの姿どのように違ったと思いますか?

A: ユニコーンの時には、保育者が気持ちをもちあげながら作っていた姿があったのに、ブルの時はすごいスピードで自分たちでつくり上げることが出来ていた姿があった。そこには、強いしたい気持ちがあったと思う

F: 子ども達が意欲的に活動をしていく姿の中には、自分の作りたい気持ちをしっかりと持つことが大切ですね

このユニコーンとケーブルカー作りでは、明らかにしたい気持ちの持つように違いがある

ここでは、具体的に作りたいもののイメージをはっきりと持っている事、それが実体験から来ているということも大きな要因ですね

3. 具体的な事例の見直し

「僕もなんかつくろうか？」		奈良市立大宮小学校	
5歳児	11月	自由選択活動	室内
ねらい ○友達と共通の目的をもち、協力したり役割分担したりしながら遊びを進めていく。 ○友達と一緒に自分の思いや考えを伝えたり確認したりしながら、遊びを楽しむ。			
<p>(これまでの子どもの姿)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お化け屋敷をつくりたいという共通の目的をもって、廊下につくったオバケを体育室に飾るなどして遊んだ経験や、大きなトラをつくるという共通のイメージをもって体をいくつかの部分に分けて作り組み合わせて一つのトラをつくった経験がある。 ・保育者が仲介をしながら友達と話し合い、共通の目的をもって、協力したり役割分担をしたりしながら遊びを進めていった経験がある。 ・遊びの中で自分のしたいことや気づいたこと、考えたことなどを友達や先生に伝えようとしたり、友達の話に刺激を受けたりしながら、興味や関心を広げられるようになってきている。 ・キャスターを付けた黒ボールの乗り物を速走の時に乗ったケーブルカーのブルにしたいたいと思ひ、自由創作をしてあそび始める 			

事例で伝えたい事がよくわかるようなものにする

「したい気持ちをもつ」「話をしたり聞いたりしながら作り上げる楽しさ」が含まれる言葉に変える

本文の事例につながるトラ作りとユニコーン作りを書き、そこでの育ちを書く

活動の様子	保育者の援助・環境構成	保育者の意図
<p>(T…保育者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A児B児が体育室貼っていた速走の写真を見ている。 ・A児「僕、この車とこころつくろね、ちよっと難しいけど、たぶんいけるわ」B児「僕がこの輪のこころつくりたいな」と、速走の写真を見ながら話合っている ・B児「ここに、こんなマーカーいゑるよな〜、できた、これいいやんか？」A児「いい」B児「じゃあつくろ」と、つくったものを乗り物に貼る。 ・B児「この車とこころどうしよう、この車（黒）じゃ足りない〜、先生（黒）ない？」T「材料車にあるよ〜」 ・B児「材料車に、こんな（黒の黒ボール）あったからこれにする〜」「Aくんこれ（つくって）いいやんか？」A児「あ、ええおんそれによ」 ・C児「僕もなんかつくろうか」B児「あ〜、じゃあ〇の口のこころつくってほしいな」げどを 	<ul style="list-style-type: none"> ・希望に貼っていた速走の写真を壁からはがし子ども達の視界として近くに置いてく ・具体的にどんなことをしようか話し始めた案や友達の話に興味をもって共感している場面を見え、一緒に傾いたりして見守る ・材料車の扉を開け、子どもが材料を探せるようにしている。 ・同じ遊びに興味をもつ友達と一緒につくっている案や様子を見えるように、すぐ近くで見守る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通のイメージや目的をもって遊べるようにする。 ・より具体的にイメージすることで、子どもが必要なものを選んだり準備したりできるようにする。 ・足りないものや欲しいものを自分で行動して調達できるようにする。 ・それぞれが遊びのアイデアを提案したり受け入れたりすることで、遊びを楽しむようにする ・友達が進んでいる様子や雰囲気に興味をもてるようにしたり、様子を見守ることで、自分たちで

ここでA児とB児がそれぞれにしていることは、役割分担ではないので捉えなおす

イメージを具体的な言葉で表現し、よりわかるようにする

活動の様子と援助・環境構成と意図とがつながっているか見直し、保育者は今なにをしようとしているかを自覚できるようにする

保育者がこの事例の中で明らかにしたい事と関係があるかどうかを踏まえ再考する

C児の育ちを踏まえ、友達と一緒に作りたい気持ちをもちかかわっていることに視点を当てた表記に整理する

<p>る？」C児「うん、できるよ簡単や」A児「Cくん、ここに白いの(糊用紙)あるで、使い」B児「これ(速乾の写真)見たらいいで、ここの口のところがな」C児「うん、わかった」</p> <p>・A児「できた！めがねの、ほら」切った糊用紙を自分の目元に当てて友達に見せるB児「おめでとうおん、貼って」T「どんどんづルになってきたね」B児「あと耳やな、茶色茶色」A児「Cくん何つ、くっつくの？」C児「ん？ここの口のところが」A児「わかった、俺このひるくっつたるか？」C児「いい、できるから」A児「分かった、じゃ赤いの(糊用紙)とって来たるか？はい」C児「お、ありがとう」B児「耳できたで」A児「おっしやー貼ろう」と、自分のみたいこと相手に伝えたり、相手の意図を知り、協力したりして一つのものをつくりあげていく楽しさを感じているようだった。</p>	<p>・3人で話したり考えたりしながらつくりあげてきた思いを、保育者も一緒に喜ぶことで受け止め、子どもたちが楽しさを満足感を味わえるようにする。</p>	<p>考えたりつくったりして遊ぶことを十分に楽しめるようにする。</p> <p>・試行錯誤し遊びを進めていく楽しさを感じたり、友達と一緒に作る喜びを味わえるようにする。</p>
---	--	--

ABC児が互いにかかわりあっている姿をしっかりとかく

4. 事例から読み取れる、事例前の経験と今回との「幼児の姿」の変容について

○ 今回の事例の核とも言える「幼児のしたい気持ち、やる気、モチベーション」が持続した要因はどんなことだったのでしょうか？

- ① したい気持ちを強く持つことができていた
- ② ある程度の完成した姿が思い描けていた
ポイント：漠然としすぎていてもわかりにくい
- ③ 自分以外の友達の様子を感じたり見たりすることができた
- ④ 段階を踏まえてみんなで作るということやここに作ったものを合わせて一つの作品ができるという経験をしていたので、自分で考える時の参考となった
- ⑤ 十分に自分のペースで取り組むことが出来る場所や時間があった

<考察>

今回、1つの事例をもとに話し合いをしていく中で、1つの「共通」と言う言葉における保育者の捉え方には、大きな違いがあることがわかった。

これには、各保育者の経験や価値観などが大きくかかわっており、話し合いの中でそれぞれが「違いが生じている事」を正しく理解する必要がある。このずれを互いに理解し合い、話し合いを重ねていくことが大切であり、その積み重ねによって、幼児の姿や発達を正しく理解し、必要な援助か環境について考えていく力が身についていくのである。

5. 研究の成果

- ・幼児の姿には内面と外面があり、研修を積み重ねる中でこの2つをしっかりと意識して読み取ることができるようになってきた。また幼児の遊びには、一見何げないような事にも多くの学びの要素が含まれており、幼児のしたい気持ちに刺激を与えるものであることに気付くことができた。幼児の遊びや姿の中には必要な援助や環境構成を行う手がかりがあり、このことを参考にかかわりや環境構成の仕方などを工夫し保育を行うことが大切である。この積み重ねが幼児の「自分で考え、判断し、行動する」姿となり、日々の遊びや生活・行事を自分たちで楽しく作り出そうとする力となっていくことがわかった
- ・保育者が相互に思いや考えを出し合い研修を積み重ねる中で、幼児の遊びを広い視点で見ることが出来るようになってきた。また、保育者の考えや「こうしなければならない」等の援助のしかたではなく、日々の生活や遊びの中で起こったことをもとに幼児の考えや発想に寄り添い、一緒になって考えたり楽しんだりすることが大切であることがわかった

6・今後の課題

- ・今年研修し得たこと再確認しながら、幼児の成長を促す言葉かけやかかわり、環境についての研修を更に積み重ね、職員の資質向上を目指し続けていくことが必要である。また、幼児一人一人の成長を促す「幼児自ら行う遊びの時間」を十分に確保し、幼児が主体的に活動できる環境作りに努めていきたい

したい気持ち、やる気、モチベーションの変化を分析していくために

◇心が動く：何となく、惹かれる、～したいな、こんな風にしたいな

第一段階 何となく惹かれる

*何となく、惹かれる（ひと・もの・こととの出会いから）

第二段階 ～したいな

具体的な要素	解 説
興味	自分から物事に働きかけるための気づきが少し入る
関心	心を起こす、継続へと向かう 面白そうと思えるような知的な部分に支えられている
気づき	見つけた・わかったなどの意識（＝発見）が入る
驚き	喜びなどが入る

第三段階 これがしたいな、こんな風にしたいな

具体的な要素	解 説
自己の欲求、自己満足	したい欲求、欲しい欲求
～したい	楽しいなどの思いが入る “楽しい、すごくしたい” “何でだろう？知りたいな”
疑問、知っていることと違う	物事の事実の違いを探る “どうなるのかな？” 疑問 “何だか違うのかな？”
目的意識の違い 振り返り (成功と失敗：結果認識)	目的に対する明確な自覚の違い “これとこれは似てるな” “思っていたこととこれは違う” (失敗、振り返り) “こうではないのかな？”
新しい疑問、確かめ ・ものに対する視点や扱い方 (使い方の 変化)、方法 (仕方の変化) の変化 ・物事の事実の認識	新しい疑問 “次は、どうなるのかな？” “このやり方はどうかな？” 確かめ “こうしてみたらどうかな” “こうしたけど、違うなあ？”
葛藤的疑問、認知的疑問	“あれれ？何でだろう？” “不思議？出来ない”
期待	“こうしたらできるかな？” “こんな風になってほしいな”
予想、予測	思いと事実との違いから自分なりの仮説を立て、解決に向けてどうすればよいかを考える “この仕方でしたらできるかな？” “あれをしてみたらどうなるだろう”

	“こうやってみよう”
--	------------

環境へのかかわりを分析していくために

◇具体的な遊びや行動へ：何となくやってみようかな、やってみよう、こうしよう

第一段階 何となくやってみようかな (初めてのかかわり・何となく 実際にかかわるという行為)
偶然的な出会いなどからの素材そのものへのかかわり “何となく”

第一段階	具体的な要素	解 説	行動を起こす要因
心惹かれる段階 “何となく”	見る	○自分のまわりをよく見たり、手 で触ったり、調べたりする	教師や友達につられて
	触る 確かめる (体感) 引き寄せられる		教師や友達の刺激で

第二段階 やってみよう (興味関心により引き起こされ、そのものとのかかわりが続く行為)
“やってみよう” 自己発揮、自分なりにしようとする

	具体的な要素	解 説	行動を起こす要因
第二段階 感覚的段階 対話的段階 “やってみよう 自己発揮 自分なりにし よう (試す)”	何? ん? あれ?	○不思議に思ったり、気付いたりする	偶然の出来事や経験 感覚的に行なわれる 行為
	満足するまで続ける 繰り返す もう一度やってみる 見て確かめる (気づき) ～してほしい (生き物に) 気付く (発見)	○繰り返し見たり、試したりする	本質に惹かれる 思いが持続する
	不思議 (形) 気づき (高さ) 真似る 不思議 (感覚) ～したい 動きが面白い	○発見や喜びを感じる	面白いことに出会い、 自分から働きかける 面白そうと感じる (知的な側面の支え)

第三段階 こうしよう (はっきりとした目的意識を持つ中で、“疑問やめあて” “予測や予想” を持ち
思考を働かせながら、ものの性質や方法、数理的感覚、物理的感覚などについて知ろうとす
るかかわり)

第三段階	具体的な要素	解 説	行動を起こす要因
目的思考段階 “こうしよう” ・ものに対する視点や扱 い方の変化 (使うもの	～しよう (試し) ○○かな? (試し) こうしたいな (試し)	○物事の新しいやり方を 工夫したり、新しいも のを作ったりする	目的意識が持てる

を変える) ・ものに対する方法の変化 (仕方を変える) ・ものに対する質の変化 (深まりや広がり生まれる)	見つめる (観察・疑問) よく見る じっくり向かう こうかなあ? と思い、じっくり見る (観察)	○積極的に関心を示し、それに近づいて じっと見てみたり 、調べてみたり、手でいじってみたり、質問したりする	まわりの新しいもの、よくわからない不思議なものとの出会い
	違う方法を考える (失敗失敗からの学び (次の方法へ) 期待通り (確信) こうして欲しい (期待)	○ 見たり 、試したり、調べたりしながら、熱心に粘り強くそれを行なう あるいは、納得のいくまで質問し続ける	自分のことや、自分の環境のことについてよく知ろうとする
	こんな風にしたらどうなる (予想) <u>こんな風にしたらこうかもしれない</u> (予想・予測) こうしたらどうなる (予想)	○関連付けて物事を見たり、自分なりの仮説を立て、解決に向けてどうすればよいかを考えたりしようとする 食い違いに気付いたり、更なる疑問を持ったりする	知っていることや前に教えられたことが活かせる

遊びや生活から得た成果

◇結果：何となくわかる、わかる

第一段階 何となくわかる (思考を働かせるのではなく、感覚的につかんだもの (意味や答え、結果)) *満足、嬉しい、やった!

第二段階 わかる
 “わかった、こうなったんだ” “やっぱり、それだよ”
 “こうしたからよかったんだ” と、成り行きを振り返り評価し、自分なりに意味や答えを導いたもの (意味や答え、結果)
 *問題解決、満足、達成感、納得

<幼児がいきいきと生活し、活動する流れ図>

